

日本学術会議 国際対応分科会 自己点検報告書

国際対応分科会(小委員会)名 WFE0分科会 更新日 2012/6/15
(2009/05/01の形式)

国際学術団体に関する事項

国際学術団体名

(和文) 国際工学団体連盟
(欧文) World Federation of Engineering Organizations
(略称) WFE0

日本学術会議加入年(西暦) 1972 年

運営組織の名称・役員の構成等

運営組織の名称(欧文) Executive Council

	会長	会長代理/次期会長	副会長	事務局長
(氏名)	Adel Al-Kharafi	Marwan Abdelham	Haro Bedelian他3名	Tahani Youssef
(国)	Kuwait	Palestinian	UK	France

役員選出方法の概要(120文字程度で記載)

理事会メンバーは、会長1名、次期会長、会計、前会長各1名、副会長4名、常設委員会委員長である副会長9名、国代表理事8名、国際メンバー代表8名、計33名から構成されている。このうち、会計と国際メンバー代表を除く24名が投票権を持つ。立候補には2名以上の理事会メンバーの推薦が必要である。

加入国・地域の数 90 ケ国

主要加入国(10ヶ国程度を列挙)

米国、イギリス、ドイツ、フランス、スイス、カナダ、ソ連、中国、韓国、アルゼンチン、
バングラディッシュ、イエーメン

国際学術団体のホームページURL <http://www.wfeo.org/>

国際学術団体の年間運営経費 EUR159,235
日本の分担予定額[事務局で記入] 2,201千円(2012年度)

国際学術団体の活動状況

総会・学術研究集会の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催地	参加者数	日本からの 参加者数	学術会議共催/ 協賛の有無
2011	第4回World Engineering Convention/総会	スイス・ジュネーブ	約1800人	27名	無
2010	World Engineering Week	アルゼンチン・ブエノ スアイレス	2000人	8名	無
2009	総会	クウェート	約200人	2名	無
2008	第3回World Engineering Convention	ブラジル	5200人	10名	無
2007	総会	ニューデリー	約200人	4名	無

運営に関する会議の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催場所 (機関等)	参加国数	日本からの 代表者名	学術会議の 代表派遣数
2011	WFEO理事会	ジュネーブ	83カ国	石井弓夫	1
2010	WFEO理事会	ブエノスアイレス	25カ国	石井弓夫	1
2009	WFEO理事会	クウェート	71カ国	石井弓夫	1
2008	WFEO理事会	ブラジル	39カ国	石井弓夫	1
2007	WFEO理事会	ニューデリー	39カ国	石井弓夫	0

出版物等(主要な定期刊行物・不定期刊行物を刊行頻度とともに箇条書きで記載)

- 1) WFEO-eNews、毎月
- 2) 9委員会のNews Letter、ほぼ年4回
- 3) 委員会の報告書、不定期

活動状況(各項目につき過去5年間の状況を120文字以内で記載)

<p style="text-align: center;">国際機関等の提唱で行った活動</p> <p>WFE0はUNESCO傘下に位置づけられていることから、UNESCOや各国政府、技術系学協会と密接な連携を持った活動が展開されている。UNESCOでは「技術：発展のためのチャレンジ」と題する活動が展開されており、例えば2008年12月にブラジルで開催された第3回WECでは「責任を伴う工学と技術革新」と題するブラジル宣言が出され、2011年の第4回WECでは「行動しよう」と題して、エネルギー、環境、気候変動問題に挑戦とするジュネーブ宣言が出された。</p>
<p style="text-align: center;">国際機関等への提言等</p> <p>2008年第3回WECでは、UNESCO等国連関連機関に対して、技術こそが社会の進歩を可能にするとの主張を骨子とするブラジリア宣言を出し、2009年にはCOP15に向けたクエート宣言（気候変動・温暖化に対処するため、WFE0は新エネルギー開発・研究、エネルギー利用効率向上の研究とともにインフラの重要性を訴える）を出し、2011年にはエネルギー問題に対する技術者の挑戦を表明し、2012年LI0+20サミットでワークショップを主催し女性技術者育成、持続可能な発展への技術者の役割を提言。</p>
<p style="text-align: center;">国際事業等への参加・実施等</p> <p>WECはほぼ4年ごとに開催されるWFE0主催の最大の国際行事であり、現在までに第1回（2000年、ドイツ）、第2回（2004年、中国）、第3回（2008年、ブラジル）、第4回（2011年、スイス）と開催され、第5回（2015年日本）が決定済みである。いずれも開催国政府の支援を受けて3000～5000人規模の世界各国の技術者が集まり、技術者が貢献すべき課題に関して国際的に最も大きな影響を与える会議となっている。</p>
<p style="text-align: center;">全世界的/地域的研究課題への取組み</p> <p>2009年11月に災害リスクマネジメントが新規の常設委員会として承認され、石井弓夫特任連携会員が委員長に就任した。これによりWFE0の常設委員会は9個となり、技術・環境、気候変動、開発、災害、技術者教育、エネルギー・資源、災害リスクマネジメント等、全世界的/地域的研究課題に積極的に取り組んでいる。WFE0の活動の特徴は、各国政府や関連する国際機関、工学系学協会等と連携して、幅広い運動を展開している点にある。</p>
<p style="text-align: center;">発展途上国への対応</p> <p>発展途上国への対応も積極的に行っている。例えば、発展途上国では人材育成が急務であることから、Engineering in Africa、South Pacific Initiative、Women in Engineering等、アフリカやパシフィック、南米諸国を対象とした技術者育成や継続教育に関する各種の取り組みが人材育成委員会を中心に展開されている。さらに、災害リスクマネジメント委員会では、発展途上国にウエイトを置いて活動を展開している。</p>

関連学術分野の動向と今後の重要課題(120文字以内で記載)

<p>2008ブラジリア宣言に盛り込まれたように、技術こそが社会の進歩を可能にするドライビングフォースであることから、工学系学協会の頂点に位置するWFE0が取り上げるべき課題は多岐にわたる。特に、環境、地球温暖化対策、資源・エネルギー、情報通信、災害リスクマネジメント等に係わる革新技術の開発と普及、技術者育成、反汚職問題、女性技術者の育成等が今後の重要課題で、国連、世銀等と連携した展開が始まり、日本への期待も大きい。</p>

国内における国際学術団体への対応状況

国際学術団体の役員就任状況(過去10年間・新しいものから遡って5件まで記載)

国際学術団体における 役職名	氏名	任期	
		開始年	終了年
副会長	石井弓夫	2009	2013
理事	石井弓夫	2007	2009
会長顧問団員	石井弓夫	2005	2008
理事	大垣眞一郎	1999	2001
理事	西野文夫	1995	1999

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名 WFE0分科会

学術会議以外の国内対応組織・委員会等

日本工学会・国際委員会

国内の関連学協会等の状況(主要なもの5件まで記載)

学協会の名称	会員数	学協会のホームページURL
日本工学会	100学会加盟 個人会員はい ない	http://jfes.or.jp
土木学会	34000人	http://www.jsce.or.jp
日本建築学会	35000人	http://www.ajj.or.jp
日本機械学会	36000人	http://www.jsme.or.jp
日本自動車技術会	45000人	http://http://www.isae.or.jp/

学術会議の国際対応分科会(小委員会)の活動状況

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名
所属分野別委員会

WFEO分科会

土木工学・建築学委員会、総合工学委員会合同

分科会(小委員会)の構成

委員長	副委員長	幹事	
池田 駿介	岸本 喜久雄	清水 康行	谷口 栄一

会員数	連携会員数	特任連携会員数
5	8	1

分科会(小委員会)の活動方針(箇条書きで120文字以内で記載)

- 1) 工学分野における我が国の国際的プレゼンスを高めるため、学術会議の関連委員会や関連学協会と協力して、WFEO活動ならびにWFEOが連携する各種の国際的/地域的活動、行事に積極的に関与、貢献する。
- 2) 2015年開催予定の第5回WECを日本に招致し、日本の技術的プレゼンスの高揚と、国際的視野を持つ日本人技術者の育成に貢献する。

今期の会議開催状況(開催日時の新しいものから遡って6回まで記載)

会議開催日時 (2011/05/01の形式)	主な審議事項・議題等
2012/3/23	WECC2015国内組織委員会、実行委員会など運営組織案の審議。WFEOスロベニア大会での日本の貢献内容の審議(災害リスクマネジメントセッションの開催、災害マネジメント委員会開催、WECC2015計画内容報告)
2011/12/21	第22期分科会構成の審議。分科会長、副会長、幹事についての審議。特認連携会員推薦についての審議。
2011/9/20	WECC2015会議発起人会開催報告。WEC2011スイス・ジュネーブ大会報告。WECC2015準備状況の報告。全体プログラムについて国際諮問委員会からの提言(短縮化などの検討)について審議。
2011/6/6	WECC2015準備状況の審議。運営組織体制、総予算案の審議。第4回災害リスクマネジメントに関するWFEO-JFES-JSCE合同国際シンポジウムの開催計画の報告。
2010/12/6	WECC2015招致決定を受けて、今後の運営組織の仕組み体制の構築について審議。次年度のWFEO活動方針案の審議。
2010/11/1	アルゼンチン・ブエノスアイレスでのWEW会議出席報告。DRM委員会での審議結果の報告と今後の方針について審議。2015WEC招致に対する国及び日本政府観光局の支援状況報告。

日本における国際学術団体の活動の周知・広報の状況(箇条書きで120文字以内で記述)

- 1) 関連学協会との協力を深めることにより、WFE0活動に対する認識・理解を深めつつある。
- 2) 日本工学会からはWECCに会議に関するニュースを定期的にメール発信し多方面に情報伝達を実施している。さらに、WECC 2015に関する情報を各機関に伝達し、WFE0に関わる活動についても理解を進めていただいている。

国際対応における国内学協会との連携状況(箇条書きで120文字以内で記述)

- 1) 日本工学会と連携し、学術会議WFE0分科会ではカバーしきれないより広範囲の学術団体・専門分野の専門家を日本工学会・国際委員会に取り込み、具体的な作業を実施している。
- 2) 土木学会、日本工学会と連携して、現在までWFE0-JFES-JSCE合同国際シンポジウムを5回開催した。今後、順次、建築学会、機械学会等との連携を進める。

特記事項・国際委員会による指摘事項等への対応状況(箇条書きで120文字以内で記述)

- 1) 日本工学会との関係(分担金共有) : WFE0に対しては、日本学術会議が正式Memberとなっている。日本工学会はAssociate member(会長選挙等理事会での投票権を持たない)として2008年にWFE0に加入。
- 2) WFE0は日本との連携を深めるべく、正式メンバーの学術会議と意見交換を望んでおり、今後検討を予定する。

分科会・小委員会活動の自己評価等(箇条書きで120文字以内で記述)

2007年から、WFE0技術・環境委員会(常設委員会)の中に災害リスクマネジメントWGを立ち上げ、日本主導で活動を開始したが、この貢献が認められ2009年から災害リスクマネジメント常設委員会に格上げされた。石井弓夫特任連携会員が委員長に就任するとともに、WFE0の副会長に選出された。2015年の世界技術者会議(WEC、目標参加者2000名)の日本招致を2009年3月の理事会で提案し、2011年9月の総会で承認を得た。以上より、本分科会の活動は所期の目的に向けて着実に活動を展開させつつある。